

ヘルスケアネットワーク
(OCHIS、武田裕理事
長)は1日、運送事業者を
対象とした定期健康診断の
事後フォロー支援システム
「運輸ヘルスケアナビシス
テム」の本格運用を開始し

OCHIS

た。健康起因事故を起こし
やすいハイリスク者を可視
化することで、安全運行の
徹底につなげる。
定期健診の検査項目、睡
眠時無呼吸症候群(SAS)
検査に加え、軽度認知障害
(MCI)の検査結果、時

間外労働や事故歴、適性診
断の結果など最大4項目を
データベース化できる。「専
門の担当者がいない」「日
常業務が煩雑で健診結果の
フォローまで手が回らな
い」といった中小事業者を
中心に、ドライバーの健康
管理を効果的にサポートす
る。

定期健診フォロー支援

ハイリスク者を可視化

導を行う。運送事業者は、
ハイリスク者への再検査、
精密検査の指示、日常の点
呼や指導に生かすことで、
事故の未然防止を図る。
OCHISでは、全日本
トラック協会(坂本克己会
長)の委託を受け、これまで
に計30社、2179人を
対象に実証実験を実施。シ
ステムの運用方法、健診デ
ータのセキュリティ管理
といった実務的な課題につ
いて検証を進めてきた。全
ト協が費用の半額を助成す
るため、1人当たり1千円
(税別)と、少ない負担で
活用することができる。

本格運用開始を受け、全
ト協は5、6月、運輸ヘル
スケアナビシステム実践的
活用セミナーを宮城、東京、
愛知、大阪、福岡の各都府
県で開催、運送事業者に活
用を呼び掛ける。

システムの開発から実証
実験まで、一貫して携わっ
てきた作本貞子副理事長は
「ハイリスク者の見える化
で、健康起因事故が一件で
も少なくなれば幸い。これ
からも、ドライバーの健康
管理へのサポートを通じ、
安全で安心な輸送の実現に
貢献したい」と話している。
(小菓史和)